

編集後記

日本農学アカデミー総務企画委員長 佐藤 晃 一

アカデミー会報第5号をやっとお届けできます。本来は昨年末に発行しなければならなかったのですが、どういうわけかお願いした原稿が集まらず、担当者としては怠慢のそしりを免れません。すぐに寄稿いただいた江澤先生には遅くなりまして申し訳なく存じております。

しかしながら、奇しくも内容が、昨年度シンポジウム「食の安全」問題に続いて、科学者の社会的責任としてのリスク・コミュニケーションあるいはリスク・マネジメントに集中した感じとなりました。SARSやコイ・ヘルペスといった聞き慣れない言葉、BSE問題の展開やトリ・インフルエンザで振り回された1年でしたが、遺伝子組み換え作物研究の推進に関してもいろいろ社会問題化しており、科学者の説明責任が重く問われる時代となっております。折しも、国立大学の法人化、そして第13期以来となる日本学術会議の大改革。(日本学術会議法の一部改正が2004年4月初めに成立)

5月には日本農学アカデミーの第3期が船出します。新生の日本学術会議第20期は予定より半年遅れましたが2005年10月に発足しますので、アカデミーとしても組織のあり方を含めた検討が求められます。農学アカデミーのアカデミーとしての機能はますます重要になるでしょう。

パソコン上では新手のウイルスがつぎつぎと現れて猛威を振るっているようですが、これも科学の進歩の一段面。会員の皆様には、悪性の風邪を引かれませぬよう、ご活躍を祈ります。

